

日野市の農業 組合長が授業

日本農業新聞掲載日：令和7年12月17日（水）

J A 東京みなみの小林和男組合長は12月上旬、日野市立日野第六小学校で出前授業を開いた。6年生の総合の学習で「日野市の農業を盛り上げるためにどうしたらよいか」をテーマに、5クラス合計149人が参加した。

小林組合長は、日野市で農業を営み、学校給食に農産物を出荷している。当日は、自身の畑で長ネギやニンジンなどを収穫し、土がついたままの野菜を児童に見せた。農業の大変さや食料の必要性について説明し、今の都市農業が大変貴重だと話した。

児童は土のついた野菜を観察し、「食べるのは簡単だけど、農作物を作るのは大変ということがよく分かった。地場産の野菜を食べて日野市の農業を応援したい」と話した。



日野市の農業について話をする小林和男組合長（東京都日野市で）